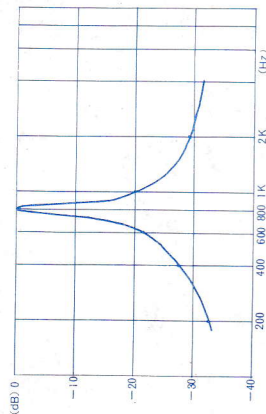
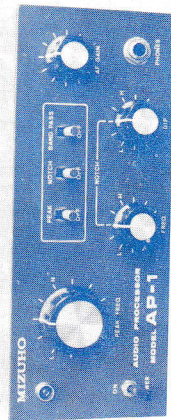


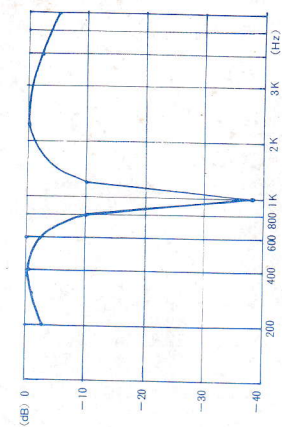
MIZUHO HAMコンポネント

高性能アクティブフィルター群を1パック

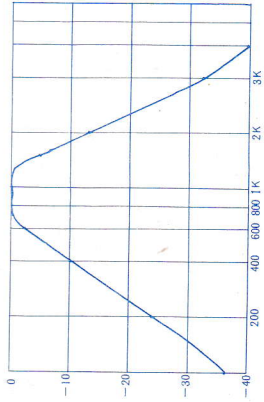
AUDIO PROCESSOR MODEL AP-1 ¥18,800



ノッチフィルター特性



ピークフィルター特性



バンドパスフィルター特性

回くりかえせば完璧です。

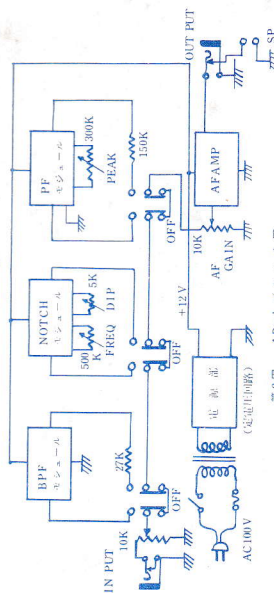
② CW受信のとき

あまり混信のないときには、BAND PASS、必要に応じてNOTCHを使います。混信がひどい場合には、他のファンクションをOFFにして、PEAKをONにします。

PEAK FREQツマミをゆっくり回します。目的の信号にチューニングすると、急に信号が大きくなります。以上の操作は一度実際に経験してみると、すぐにのみこむことができます。

AP-1と組合せ使用するスピーカーは、10cm以上の大きめのスピーカーを使用した方が、音質的にも聞きやすく、AP-1の良さを発揮します。

ヘッドフォンも通信機用の8Ωのもの最適ですが、ステレオ用のものは、左右を直列、或いはパラレルにして使用して下さい。



第2図 AP-1ブロック図

AP-1 定格

- (1) フィルター種目
 - (A) 狭帯域フィルター (ピーク) 500~1,000Hz可変
 - (B) 帯域フィルター (バンドパス) 600~1,500Hz固定
 - (C) 狭帯域減衰器 (ノッチ) 600~3,000Hz可変
- (2) 選択機能

単独及び直列使用可能
- (3) 入力インピーダンス及びレベル 2.5KΩ
-30dB(RXの8Ω SP端子接続可)
- (4) 出力インピーダンス及び電力 8Ω 1W
- (5) 電源 AC100V 50/60Hz 10W
- (6) 選択特性
 - (A) 狭帯域フィルター
中心周波数に対し、
1octにて25dB以上
 - (B) 帯域フィルター
帯域外減衰1oct, 10dB以上
- (7) 寸法 W200×H80×D140 mm
- (8) 重量 1.6kg
- (9) 付属品 両プラグコード

三ツ市通信(株)

東京都町田市森野2-8-6 平194
電子開発センター 東京都町田市高ヶ坂1818-1
TEL 0427(23)1049

オーディオプロセッサとは

AP-1は受信機(トランジバー)のヘッドフォン端子に接続して、再生された受信音を音声処理により、目的の信号のみをピックアップすると同時に雑音域化によりSNを改善します。こんなところから、本機をオーディオ・プロセッサと呼ぶことにしました。

SSB, CWファンはもとより、AM, 同じくBCLファンにも、その使用効果は著るしいものがあります。

各セクションの動き

(1) 帯域フィルター (BAND PASS)

最近話題のNBVM(Narrow-Band Voice Modulation)の思想により、従来SSBでも300~3000Hzといわれていた音声を600~1500Hzのわずかな900Hzの幅で再生するのが本機です。

SSBのQSOで体験するキャリポイントの違い、チャリチャリという感じの耳ざわりになる混信があります。これが、本機の使用でスバッと切りとれます。そして1500Hz以上のノイズも消えますから、クリヤーになって長時間の運用にも疲れません。

(2) ノッチフィルター (NOTCH)

受信信号に含まれた、単一周波妨害を取り除くフィルターで受信中に混入するピート或は特定箇所での混信を取り除きます。その周波数及びデブ点を自由に調整できます。

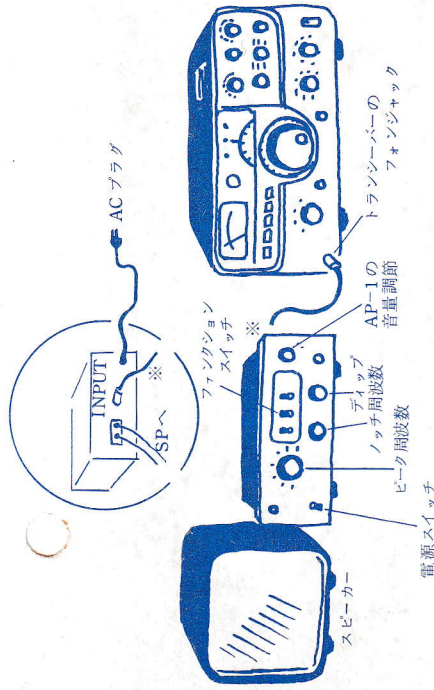
(3) CW用ピークフィルター (PEAK)

CW専用フィルターで、その通過帯域は-6dBの点で40~50Hzと驚異的な狭帯域フィルターです。

7MHzのように、ひどいQRMの中から希望する局がチューニングすることによって、浮び上がってくる様子は、見事なものです。

このピーク点のチューニング範囲は500Hzから1000KHzまで可変できます。また、DX QSO時に、強力な局のサイドにかすかに入感する信号をキャッチする時にも威力を発揮します。

AP-1は、このフィルターを通過した目的の信号を、スピーカーで聞くための低周波増幅器を内蔵し、更に定電圧電源も入っていますから、長時間安心して運用できます。混信やピート、そして高域雑音から逃れられることから、疲



第1図 AP-1の接続と各ツマミの動き

労しない、快適なQSOが楽しめます、一度使用したら手離すことができます。

使用 方 法

接続は、第2図のようになります。トランジバーとAP-1間は付属の両プラグコードを使います。

リグによつては、ヘッドフォン(HPONES)端子として、3.5φジャックのものがあります。そのときには両3.5φプラグを使うか、変換プラグ等を使って下さい。

① SSB受信のとき (AMやFMも同様)

ファンクションスイッチ (PEAK・NOTCH・BAND PASS) をOFFにして、SSB局を聞いてみます。受信機 (トランジバー) のAF GAINのボリュームを上げすぎると、本機が飽和したり、音質が悪くなりますから、 $\frac{1}{3} \sim \frac{1}{2}$ 位にして、あとはAP-1のAF GAINで最適な音量に合せます。この状態にしてから、BAND PASSスイッチをON (上側) にします。

高域の音がスバッと切れて、ノイズレベルも下ります。特に混信があるときに威力を発揮します。

BAND PASSにしても更にピートや、混信が耳ざわりのときにはNOTCHフィルタースイッチをONにして、FREQとDIPのつまみで、妨害電波の周波数に合わせると、その妨害を取り除くことができます。

SSBや、AM或いはFMのときには、PEAKとBAND PASSをOFFにし、NOTCHだけ働かせることもできます。

NOTCH調整のコツは、先に削除したい周波数 (例えばピート) にFREQつまみを合わせます。次にDIPつまみで更に消える点を求めます。これを2~3